南の光明
The Catholic Diocese of Naha Newsletter

今年の教区の目標
われら皆　和解の器
平和の担い手

〒902-0067　那覇市安里3-7-2
カトリック那覇教区本部
TEL.098-863-2020 FAX.098-863-8474
発行人　W.F.バーント司教　1部40円
http://www.naha.catholic.jp/

(1) 2023年6月1日（毎月1日発行）　カトリック那覇教区報 MINAMI NO KŌMYŌ　第775号（6月号）

2023年 平和メッセージ　大国の挟間からの叫び

「我々は大砲の餌ではない！　平和の架け橋・万国の津梁（しんりょう）だ！」

カトリック那覇教区
ウェイン・F・バーント司教

大国の挟間からの叫び

もう、戦争はいらない。
もう、悲しみはいらない。
もう、抑圧はいらない。
もう、差別はいらない。
もう、基地はいらない。
もう、砲弾やミサイルはいらない。
我々を大砲の餌として利用するな！

大国の挟間からの叫び

ただ、平和に生きたい。
ただ、すべての国との友愛関係に生きたい。
ただ、わが子々孫々と共に末永く生きたい。
ただ、大空、地、海と共に優しく生きたい。
ただ、「いちゃりばちょーでー」のこころで
生きたい。
ただ、「ぬちどぅ宝」の精神、
「ちむがなさ」のまごころを生きたい。
我々は平和の架け橋・万国の津梁（しんりょう）だ！

平和のいしずえ・沖縄からの祈り

すべての戦争犠牲者の霊魂を抱くこの地を、
父よ、あなたの御手に委ねます。
戦禍をかいくぐり、
いのちを繋いでくださった
先祖の労苦を顧みてください。
父よ、あなたの御手に委ねます。
いまを生きる者が
二度と戦禍に逃げ惑うことが
ありませんように。
父よ、あなたの御手に委ねます。
再び沖縄を大砲の餌とさせないため、
軍事基地のいらない
和解と友愛の拠点としてください。
父よ、あなたの御手に委ねます。
戦争への備えは、戦争のはじまり。
戦争への備えは、必ず戦争につながることを
すべての人に悟らせてください。
父よ、あなたの御手に委ねます。
戦争への備えをすべて放棄した平和な世界を
切望しつつ、
父よ、あなたの御手に委ねます。

二〇二三年六月

＊沖縄の言葉
・「いちゃりばちょーでー」→「（一度）出会ったならば、みな兄弟」。　・「ぬちどぅ宝」→「いのちこそは宝」。
・「ちむがなさ」→「衷心の愛」が直訳だが、「相手の痛みを深く感じる愛」の意味もある。

＊歴史的言葉
・「大砲の餌」→敵の攻撃力を消耗させ、優位に立つために敢えて人間を的とし、消耗品として使い捨てること。敵の攻撃の犠牲になることを前提に、前線へ投入される兵士や攻撃の的となる場所にいる人間を指し示す恐ろしい表現。　・「我々は平和の架け橋」→琉球人は各国へ出向き、友好と平和のハブ（架け橋）であった。　・「万国の津梁（しんりょう）」→琉球王国は交易と交流のハブ（拠点）であった。

Miyako Parish is an Integral Community

By: Fr. Joachim Phan Dinh Hoai,Parish Priest
Miyako Hirara Catholic Church

As Catholic faithful, we all know that one of the most important character of our Church is unity, together with holy, catholic and apostolic characters. When Jesus journeyed with His disciples, He used the image of wine and branches to express the necessity of the unity among all members of the disciples. He said to His disciples: "I am the vine and you are the branches. If the one who remains in me and I in him, will bear much fruit. For apart from me you can do nothing." (Jn. 15, 5).

Realizing the true value of unity, St Paul time and again emphasized the importance of the integration and mutual acceptance of all members in the early faithful communities. He addressed in the letter to the Galatians that they were not separated from one another; rather, they would be always united in Christ. He wrote: "There is neither Jew nor Greek, Slave nor Free, male nor female, for you are all one in Christ Jesus." (Gal. 3, 28).

However, in the journey of our Church, here and there, we still see un-united communities where members find difficult to adjust into, or to be accepted. The causes are many: the difference of custom, culture, social system and so on.

Our Church has paid much attention to this issue. This reality has been pointed out and discussed in different levels in our Church, in order to help all members totally and effectively take part in the life of community where they are living. One of the concrete activities is the recent Synod, which allows and encourages all of us to contribute opinions and ideas for the betterment of the unity in each community, as a universal Church.

In line with this, looking at the spiritual and pastoral life of our Diocese, I thank God for the guidance and protection. God always loves us and keeps all of us united to one another, although many of our parish communities are formed by members from different cultural background or different countries. The Miyako parish, which I am assigned as a pastor, is one of these.

According to the historical record, Miyako parish was established in 1957. Since then, together with their past pastors, the parish has grown up, thanks to the efforts and contribution of both native and foreign parishioners.

At the beginning, Fr. Martin spiritually nourished all members with Sacraments, especially the Eucharist. As an evangelizer, he often visited the family of parishioners and even the non-Catholic families in the rural areas such as Bora or Karimata village. For foreigners, Fr. Martin tried to accommodate and instruct them well so that they could quickly settle in new environment setting.

At that time, there were separated Masses: Japanese Mass for the native parishioners and English Mass for foreigners. Later on, the foreign parishioners gradually integrated themselves into the community. Step by step they took part in very well to the activities of the parish.

Now, about half of the parish members are foreigners, most of them are Filipina. Many of them already settled in Miyako for a period of time, so they are able to get along with native parishioners very well. They participate on all the activities of the parish community. In the past, they were instructed and guided to integrate into the community, now it is their turn to help the newcomer to join and become members. Furthermore, the Filipina in Miyako have integrated well, not only to the parish community, but they also contribute to the cultural richness of Miyako Island. They introduced the folk dances of the Philippines to Miyako people. They often perform folk dance called "Bamboo Dance" during festivals in Miyako.

Together with Japanese and Filipina parishioners, recently our parish community also welcome the new Vietnamese members. They really need to be helped and guided by the others so that they can quickly be one with us in our community. If before, we had English Mass for the foreigners, now I say Mass in Vietnamese for them twice a month. In near future, hopefully the new comers will also mingle well with the community and become one with us.

I believe that God always protect our parish community. Like St Paul affirmed the Roman faithful community that in Christ, though they were many formed one body, so Miyako Catholic community too, we become an integral community in Jesus Christ.

May God always bless us and keep our community in His love!

ニヌファ★

聖三位一体の祝日について

ロドニー・モンディッド神父
石垣教会　主任司祭

六月の第一日曜日（六月四日）には、わたしたちは三位一体の祝日を祝います。聖三位一体の祝日について簡単にお話しさせてください。

カトリック教会は、父と子と聖霊の三つの聖なるペルソナ(位格)があると、教えています。その三つは、それぞれ、異なっていますが、一体なのです。父と子と聖霊についての内的関係の教えは、人間の心では、充分理解することはできません。それは、神秘です。

偉大な哲学者であり、神学者のヒッポの聖オーガスチン(※)についての話があります。

彼は、聖なる三位一体について、一生懸命考えていました。三位一体の唯一の神についての教えを理解し、論理的に説明ができるようにしたいと、思っていました。ある日、彼は、海岸を散歩しながら、このことについて考えていました。すると、小さい子どもが、一人で海岸を歩いているのに、出くわしました。その子は、砂に穴を掘って、小さなコップで、海の水を入れていました。走りながら、砂の中に自分で作った穴に、海の水を入れていました。その女の子は、行ったり来たりして、コップで、穴の中に海の水を入れ続けていました。聖オーガスチンは、女の子に近寄って、「お嬢さん、何をしていますか?」と言いました。女の子は、「海の水を全部、この穴の中に入れたいのです」と答えました。聖オーガスチンは、「こんな小さなコップで、大きな海の水が、この穴に入ると思いますか?」と、女の子に尋ねました。

すると、女の子は、「では、あなたは、その小さい頭で、神様の偉大さを理解することができますか?」と言うと、その姿は見えなくなりました。

聖オーガスチンのように、わたしたちも、三位一体がどういうものか理解することは、できませんが、それを理解しようとすることは、大切だと思います。

神様は、神様の本質についての神秘を、何故、わたしたちにお示しになったのでしょうか？　この教えの大切さは、わたしたちが、神様に似せて創られたことによるのです。ですから、神様を知れば知るほど、自分自身を知ることになるのです。

わたしたちは、ご聖体の中におられ、教会の神秘である三位一体の神様に願います。ごミサの初めから、父と子と聖霊の聖名によって十字架の印を行ない、そして、ミサの終わりの三位一体の祝福を受けるまで、聖なる三位一体は、わたしたちの祈りと願いを聞き、わたしたちを祝福してくださいます。

ごミサの中の、わたしたちの祈りは、イエス・キリストと聖霊の取次ぎによって、直接、父なる神様に届きます。そして、わたしたち、クリスチャンは、もっと、はっきりと、聖なる三位一体の神秘について、知るようになるのです。

(※) 英語読みではオーガスチンですが、日本語ではアウグスティヌスと表記されています。

NPO法人ぶどう園の会
訪問看護ステーション クララ
TEL&FAX:098-937-5001
住所　沖縄市泡瀬2丁目37-15
・基本受付　月曜日～金曜日(申込、相談など)
・営業時間　8:30～17:30
・営 業 日　24時間365日(緊急対応含む)

訃報

◆与那原教会
ビンセンシオ・ア・パウロ
浦田　和夫　様
二〇二三年五月四日帰天
享年六十九歳

2023年5月拡大司祭・助祭会議議事録

開催日時：2023年5月2日（火）10:00～12:30

1. 報告及び連絡事項：司会はナビーン神父が担当。

・前回（4月会議）の報告を新田が行い、承認された。

・司会のナビーン神父から、司祭の休暇と出張による司教の不在が連絡された。
マキシム神父、4/29－5/2、5/18－6/2、休暇と出張。マイケル神父、5/2－5/5、出張。
ピーター・チェ神父、5/2－5/5、出張。ウェイン司教、5/8－9、福岡神学院会議。
5/23－24、カトリック中央協議会、社会司教委員会。デニス神父、4/15－5/19、休暇。
リカルド神父、4/25－7/14、休暇。

・ウェイン司教から典礼に関する注意が行われた。基本的に、新しく導入された典礼式文を用いて儀式は執り行われるべきものであること、典礼の規則に定められた通りに儀式は行われるもので、勝手に変更・省略はできないことに注意が促された。また、ゆるしの秘跡など、信徒の便宜を図り、時間を決めて受けやすくする等、各小教区で工夫してより積極的に行って欲しい。また、カテキズムや聖書の勉強会等の信仰養成も積極的に行うよう、主任司祭たちに努めてほしい旨要望された。さらに、未信者間の結婚式に関しても、初婚であることと、準備の講座を受けることを条件に日本では教会挙式ができるので、結婚講座を省略せずに積極的に受け入れるよう司祭たちに理解が求められた。さらに司祭たちには、県外への出張や休暇で出かける際には必ず司教の許可を得ること、また事前に司教と調整してから、航空券等の手配等は行うよう求められた。司教の所用で連絡が取れない時でも、マーシーさんに連絡すれば、所用の後に必ず連絡するので、決定は相談後にするよう要請された。

2. 審議事項

・別紙で配られた「シノドスのための祈り」について、ウェイン司教から解説が行われた。5月31日（水）の「聖母の訪問」の祝日に、全世界でシノドスのための祈りを唱えるよう、ローマから要請が来ている。5/31の朝ミサが望ましいが、平日で朝ミサへの参加が少ない等の理由で、別に時間を決めて唱えることもできる。しかしながら、ローマは5/31と日付を指定しているので、その日の朝ミサは必ずその意向に沿って捧げられるようにとの通達があった。

・3教区合同黙想会について、担当のブイ神父と津波古事務局長から、別紙の日程表に沿って説明が行われた。那覇教区、鹿児島教区、大分教区が持ち回りで行っている年次黙想会であり、今回は那覇教区がホスト役でもあるので、教区司祭たちは全員が参加するよう要請された。6/19（月）午後4時からホテルにチェックインし、午後6時から安里教会で導入、司教挨拶と聖体賛美式、エドガー司教の講話、晩の祈りを唱えて後、安里教会ホールで歓迎夕食会。20日～22日、講話とミサが日程に沿って行われ、23日は6時からの小禄教会での平和祈願ミサをもって閉会する。なお、引き続き平和巡礼に参加できる方々にはバスでの送迎を行う等の説明が行われた。また、黙想会の間の典礼奉仕は、教区司祭たちが行うよう当番表が示され、了承された。

・教区の6・23平和巡礼の計画については、教区平和委員会と坂上神父の協力で準備を進め、6月司祭会議で説明報告することが確認された。

・カテキスタ養成講座については、当初5月末頃に開講する予定であったが、Sr.中村の体調不良等により仕切り直しとなった。新たにピーター・チェ神父を責任者として、ブイ神父、古川神父も協力して、計画の策定を急いでもらい、早めに開催できるよう準備して欲しいとの要請がウェイン司教から行われた。

・サマーキャンプに関して、青少年担当のナビーン神父が、カトリック沖縄学園での職務に就いたため、担当をブイ神父に変更することが報告され、了承された。6月の司祭会議で報告できるよう、今年のサマーキャンプ計画を立案するよう要請があった。

・ポルトガルのリスボンで開催されるワールドユースデイへの参加希望者が、教区内から4人いることがナビーン神父から報告された。参加費の負担が大きいため、教区として、また小教区にも呼び掛けて、4人の若者たちを教区の代表として送り出せるよう協力していくことを確認し、その所属小教区のみならず、すべての小教区で募金をすることが確認された。

・6月の司教予定について、マーシーさんから報告が行われた。6/4、読谷教会ミサ。6/11、泡瀬教会公式訪問。6/25、普天間教会公式訪問。6/19～23、3教区合同黙想会。平和巡礼。6/24、正義と平和協議会議。

・その他。自動車税と自動車保険料納付は教区で一括して行っているが、小教区からの未納が増えているので、会計責任者、役員さんたちに説明して、確実に支払いするよう教区事務局から依頼があった。

・5/8～9、ブイ神父が東京に出かけるため不在となることが報告された。

・ウェイン司教とさいたま司教との合意の下、坂上神父の希望により、一年間協力司祭として普天間教会の旧司祭館に滞在し、主任司祭不在時の小教区ミサ等の手伝いをしていくことが報告された。

・園長藤澤神父からヨゼフ幼稚園について報告があり、新しく来ていただける先生もやっと決まって、運営体制が整ったことが報告された。

・次回6月の拡大司祭・助祭会議は6月6日（火）午前10時から安里教区センターで行われる。

2023年5月16日　承認：ウェイン・フランシス・バーント司教　　記録：新田　選

たて軸よこ軸

共にいてくださるイエス様

平良教会　上田その子

日々の暮らしの中で、人のさりげない優しさに救われることがあります。

五月の連休明け、風邪を引いたのか声が枯れてしまい、耳鼻科を受診すると「声帯が腫れていますよ」「大きな声を出さないようにして下さいね」とのこと。とはいえ、授業でしゃべらないわけにもいかず、なかなか良くなりませんでした。そんなある日、教壇に立った私に、ある男子生徒が「先生、喉は良くなりましたか？」と声をかけてくれました。「うーん、50％くらいは良くなったかな」と答えると「早く良くなるといいですね」と、温かい言葉が返ってきました。体調が悪い上に、騒がしい生徒が多いそのクラスに悩まされていたせいか、彼の優しい言葉がとても胸に沁み、心の中で「イエス様！ありがとうございます！」と叫びました。その生徒の中にイエス様を見つけたような気持ちになったのです。

また、ある日の夕方、混み合うスーパーのレジに並んでいた時のことです。新学期の準備がなかなか終わらず、残業した帰りで私はひどく疲れていました。そんな日に限って買わなければならないものが多く、カートの買い物かごの中身はいっぱいで、レジも長蛇の列。「あー、早く家に帰って休みたい。でも家にも仕事がたくさんあるなあ」と心の中でつぶやきながら、ぼんやり列を進んでいました。あと一人で私の番だという時、前に並んでいた中年の男性が、何も言わずに私のカートに乗った重い買い物かごをひょいとレジの台に乗せてくれたのです。思わぬ親切に戸惑いながら「え？すみません、ありがとうございます！」と頭を下げる私に、その男性は「ついでだから」とだけ答えてスーパーを出ていきました。

あまりにも自然に軽やかに他人に奉仕できる男性に文字通り頭が下がり、一日の疲れが癒される感覚が体中に広がりました。そしてまた、心の中で思わず「イエス様！疲れている私を見ていてくださったんですね。ありがとうございます！」と叫びました。

「私はいつもあなたがたと共にいる」これまで何度も聞いてきた御言葉を実感する時があります。病んでいるとき、疲れているとき、不安に打ちひしがれるとき、人の優しさに触れると、身も心も癒されるものです。そんな時、目には見えないけれどイエス様はいつも私たちのそばにいらっしゃって、励ましてくださっていると心から思えるのです。

「天に口無し、人をして言わしむ」漢文の授業で出てくる例文をふと思い出しながら、周りの人たちのさりげない優しい言葉や親切は、神様からのメッセージでありエールなのだ、私自身も及ばずながら誰かのためのメッセンジャーでありたいと思います。

今、世界に目を向けると、ロシアのウクライナ侵攻が始まって以来、不穏な空気に包まれ、あちらこちらで争いの火種が生まれています。私たちの住む沖縄の行く末はどうなるのだろうと不安になり、「平和の担い手」として何ができるか考えてみても具体的にどう行動すればよいか分からず、途方に暮れるばかりです。しかし、子ども達の未来を平和な沖縄を守るため、決して希望を失うことなく、日々の暮らしのなかで愛を実践し続けていきたいと思います。心の目を開いて、いつも共にいて下さるイエス様の存在を感じながら。

◇◇◇◇◇◇ ご案内 ◇◇◇◇◇◇

☆ケーキの切れない非行少年たち☆
NHK(BS1) 6月20日(火)
夜 8:00~9:39

上のドキュメンタリドラマを紹介します。これは　私達(カトリック信者)はもちろんの事、子育て中の親子！これからの若者達を支えて行く大人達とご家族で是非観て欲しいという気持ちで、お知らせしたいと思いました。

(安里教会信徒・周本よしえ)

那覇教区平和委員会

6.23平和巡礼について

巡礼は小禄教会での早朝ミサ（午前6時開式）に始まって、ミサ後、「魂魄の塔」までの道を巡礼して行きます。途中での集会場所が定まっていないため、行程は後日小教区にポスターでお知らせいたします。6･23平和巡礼は今年から再開しますので、参加される方々は準備をお願いします。

カトリック那覇教区平和委員会

那覇教区
カテキスタ養成講座の開講予定の日の変更について

諸般の事情により、当初2023年5月28日に予定しておりました同講座の開講日は、7月15日(土)に順延いたします。なお、まだ参加希望者のいない小教区もあるため再度主任司祭を通じて受講者を募ります。参加希望者のまだ出ていない小教区は主任司祭の推薦によってご応募ください。各小教区少なくとも1名の参加をお願い致します。

那覇教区カテキスタ養成委員会
委員長　ピーター・チェ神父

寄稿：カトリック琉球列島ミッションの読後感想

鹿児島県姶良市　吉田　良博

昨年 11 月、「カトリック琉球列島ミッション」の贈呈をいただき深く感謝申し上げます。宣教師たちの手紙は実録の宣教史であり、実に高尚な素晴らしい本でした。琉球列島宣教 75 周年の記念すべき年に出版されたとのこと、この良書に出会えたことは、喜びとともに、神のはからいでなされた大きな恵みを受けたと実感しております。

そのきっかけとなったのは、2022 年 11 月 7 日の南海日日新聞「ひろば」欄に投稿した私の記事「宣教史と日誌で知る」のご縁がなせる神のはからいでした。全く存じ上げないＴさんから、姶良教会のアン神父様を通じてそのお伝えがあったのが始まりです。2022 年 11 月 8 日にアン神父様よりメールがあり、Ｔさんから本が届いていますとの連絡を受け、11 月 13 日（日）主日のミサの後に初めてその本を拝受し、読み始めたのでした。

読んでいくうちに 1947 年から 1974 年までの事を細かくよく編集され、500 余通の手紙と公文書のやり取りの内容は琉球列島宣教の歴史を具に伝える圧巻の書物であることを知りました。そして手紙の文面等はソフトで内容の簡潔な文章に好感を持ちながら、カプチン会とコンベンツアル会の神父様方の島々に対する並々らぬ宣教の熱意がヒシヒシと伝わってくることに、非常な感動と尊厳を覚えました。

「素晴らしい本」の内容だ―と読みながら心に思い進んでいくうちに、奄美における神父様のお顔が目に浮かんできたのです。

1947 年頃は神父様方のお名前は全く知りませんでした（私は当時小学校２年生でした）。しかしあのとんがりの三角塔屋根と十字架が目立つ聖心教会の正面の建物（初期）は脳裏に強く刻まれております。また、聖心教会正面の左側には車庫と整備工場があり、ジープの姿なども私の記憶には鮮明に残っております。

その頃（1949 年）は名瀬聖心教会の近くに住んでおり、教会の広場は子供の遊び場であり、時には聖堂内に自由に出入りしていました。その静かな聖堂内の雰囲気は今になって強く思い出されます。カトリック図書館もすぐ近くにありよく出入りをしていました。

あの独特な神父さんの宣教スタイル（茶の修道服と腰の白紐、黒々とした顎髭のお顔）はよく見かけていたのでした。今思えばそれはカプチン会神父さんたちの正式な修道服であったことがわかります。当時はカプチン会とかコンベンツアル会の神父さんという存在は全く知りませんでした。今回この著書を読むことで得た大きな収穫は、自己の啓発に大きく結びついていくことを強く意識しております。もちろん神父さん方の個々人のお名前は存じないし、カプチン会の存在も知る由もありませんでしたが、読後にそれらのことも知り得ました。また、その後の時間の経過では、ゼローム神父さん（コンベンツアル会）の笑顔スマイルは強烈で、私の成長過程の中ではしっかりと記憶に残っております。あの微笑は素晴らしかったです。

今琉球列島ミッションの著書を読み終わって、カプチン会とコンベンツアル会の神父さん方は奄美の峻険な山道をハブ、雨と悪路の自然条件の厳しさと戦いながらも徒歩で山を越えて各集落への福音宣教を成し遂げられて使徒職を全うされた熱意に圧倒されました。

とくに本書の第３章、第８章～10 章、第 17 章の後段行の数ページ（563 頁以降）は読みながら奄美の現状をしっかりと捉え観察され記述されていることには驚嘆させられました。

また全体の手紙文で思うのは、語句のソフトな文言は神父さん方の人格を如実に描き出している感じをつくづくと思うのでした。

昨年の 11 月 13 日より読み始めて約５ケ月余の読書日数となりましたが、それは細かく丹念に読み込んでいくことで最小限必要な日数となりました。焦らずにゆっくりと読んでいくうちに、奄美は琉球の一部であり、一体となるべき宣教地であり、その歴史を内在していることを知らされました。何故鹿児島教区に包含されたのか？と疑問に思うのでした。復帰という大きな社会的事象はありましたが、宗教の面から考えると・・・。

著者は実録宣教史として、沖縄、奄美、八重山諸島のその内実を詳細に記述されております。一方、奄美の歴史を知る百科事典としての位置付けも濃厚にあるものと思われます。今回良書に巡り会えたことでその価値を認知させられました。

私の座右の書として、度々再読に挑み、私の心の糧としてゆきたいと思っております。稚拙な読後感想で恐縮でございますがどうぞご許容いただきたいと存じます。

すべてにありがとうございました。感謝申し上げます。

教区NEWS教会

司教訪問
「心の目を開いて・・・」

宮古島保良教会・平良教会

コロナ禍で延び延びになっていた司教訪問が五月二十日（土）保良教会、翌二十一日（日）は平良教会と実現されたのは共同体にとっては大きな喜びでした。保良教会では堅信式が行われ、次の若き三名がその恵みを受けました。

パードレ・ピオ デミアン（高校生）
マリア・アスンタ ゆりあ（中学生）
ポリナ　新里恵理（中学生）

「これからの信仰生活が神様の恵みの中でますます強められますように」と祈って下さった方達と共に喜びを分かち合いました。

翌日の平良教会では、司教さま、ヨアキム神父さまによるごミサが行われました。この日は「主の昇天」の祭日で司教さまの説教の中の聖書の引用『心の目を開いてくださるように』（エフェソの教会への手紙）は心に響いたことでしょう。ミサ後、司教さまどの話し合いの交流がもたれました。

小教区の会計、会計事務の事、ユタとのかかわり、女性会の活動、社会への参加など日頃考えている事、思っている事などの質問が忌憚なく出されました。

司教さまはこれらの事がらに分かち合いの大切さを軸にしながら、わかりやすく丁寧に、そして具体的に話されました。小教区がかかえるこれらの事がらは、すぐに解決できないものの多くの示唆をいただき、とても有意義な話し合いを持つことができました。

交流後、集会場で女性会の心のこもった手料理のカレーライスとケーキを食しながら感謝のうちに楽しい歓迎会がひらかれました。司教さまとの再会の機会が訪れる事を願い、共同体に「心の目を・・・」と神様の恵みを祈りながら。（伊志嶺節子）

コザ教会日曜学校
親子ピクニック

コザ教会

去る五月二十一日、主の昇天のごミサに与った後、沖縄市八重島公園に移動してピクニックを楽しみました。梅雨入りした沖縄地方、天気が少し心配でしたが、当日は薄日が差す空模様で吹く風も心地良く絶好のピクニック日和になりました。

参加者は子どもたち十一名、保護者十二名、主任司祭ピーター神父、シスターマドレーヌ、日曜学校の先生新本さん、スタッフ六名、総勢三十二名の参加でした。

みんなで輪になってお祈りの歌を歌ったあと、二チームに分かれてボールを使った親子リレーのスタートです。おじいちゃん、おばあちゃんの参加もあり、お孫さんといっしょに走って、気持ちいい汗をかきました。そしてシスター考案のジェスチャー当てゲームでは、長ーい鼻のゾウさんの真似をするお母さん、ぴょんぴょん跳ねるお父さん。「カエル？違うよウサギだよ！」子どもたちは大きな声で答えを言い合い大笑い。日本語、英語、タガログ語が飛び交って大盛り上がりのゲームでした。

お昼には教会から提供してもらったお弁当をみんなで一緒にいただきました。外で食べるおにぎりは最高に美味しかったです。子どもたちはその後も公園の遊具で遊んで、充実した日曜日を過ごせたと思います。

コロナ禍でカトリック教会も多くの活動が制限されていました。コザ教会では昨年の九月から日曜学校の活動を再開しており、毎週日曜日ごミサに与った

あと、二歳児から小学校低学年の子どもたち及び保護者が集まり、みんな一緒に歌を歌ったり手遊びや聖書の絵本の読み聞かせなどをして過ごしています。教会での友達の輪や保護者同士の横の繋がりが少しずつ広がっていることを感じます。

今回、久しぶりに公園で楽しく活動ができたことを参加者全員で喜びを分かち合いました。神に感謝。（與那嶺浩民）

「パードレ・ピオの集い」
開催日変更のお知らせ

６月より開催日が毎週土曜日午後2時～3時30分に変更になります。
お間違いのないようお越しください。
内　容：聖体顕示、ロザリオ、いつくしみの祈り
場　所：カトリック小禄教会　　指 導：ペトロ神父

※どなたでも、どうぞお気軽にお出でください。ペトロ神父

サマーキャンプについて

Pastors　Parish Council Presidents

† The Peace of the Lord be with you!

It is my pleasure to announce to you that the plans for the 54th Annual Naha Diocesan Summer Camp 2023,"Let Us Walk Together" have been completed. The summer time is when our children can have many experiences that they may not be able to have at home or at school that can reaffirm life and give them memories that can last a lifetime. Through the summer camp experience our children from their childhood can make friends with other children in the diocese that have the same faith. It is my hope that they will make many life-long friendships during the summer camp. It should also be noted that the summer camp is not just a time for outside activities but is considered an integral part of the faith education of our children. I realize that you are very busy in the parishes but I would appreciate your full cooperation with our summer program. It is my hope that this year as well many of our children will be able to attend the summer camp.

Bp. Wayne Francis Berndt, OFM Cap

主任司祭様　教会委員長様

† 主の平和

梅雨の季節となりました。皆様、いかがお過ごしでしょうか。さて、2023 那覇教区第 54 回サマーキャンプ、『ともに歩む』の予定が決まりましたのでご案内申し上げます。夏休みの間に、家や学校ではなかなかできない信仰体験を積むことにより、きっと生涯の友と生きる力を得ることになるでしょう。ですから、同じ学校、同じ学年、同じ小教区ではなく、さまざまな小教区の子どもたちと、同じ信仰を持った仲間として友だちになってほしいと思います。また、キャンプでは、自然に囲まれ、指導者と小グループで過ごすことが基本となります。そして、キャンプを単なる野外活動としてではなく、信仰教育の一環として取り組んでいます。ご多忙中のところ誠に恐れ入りますが、ご協力を賜りたくお願い申し上げます。今年も多くの子どもたちのご参加をお待ちしております。　　ウェイン・フランシス・バーント司教

第54回（2023年）サマーキャンプのお知らせ

・日　時：小学３年生～６年生……７月29日（土）午前9:30 ～ 午後5:00
Elementary, grades 3～6…July 29 (Sat) 9:30AM ～ 5:00PM
中学・高校生…… 8月5日（土）午前9:30 ～ 午後5:00
Junior/Senior High…… August 5 (Sat) 9:30AM ～ 5:00PM

・テーマ：　ともに歩む ～自分の周りのすべてのものとどう関わるか～
Walk Together

・活動内容：ワーク、分かち合い、水泳、バーベキュー、御ミサなど
Lecture, sharing, swimming, BBQ, Mass etc...

・参加費：無料 Participating Fee : free of charge

・場　所：那覇教区ミッションビーチ（恩納村）(Mission Beach)

・参加申込期限：７月９日（日）
July 9 (deadline of submission)

・7月23日（日）：大掃除　13時から～
(現地集合でお願いします)
general cleaning.

※参加申込書に必要事項を記入の上、所属教会主任司祭にご提出ください。
※当日朝、体温測定を行っていただき、体調に不安がある方は、参加を御遠慮くださいますようお願いいたします。
※黙想の家までの送迎については各小教区単位で対応することになりました。主任司祭にご連絡ください。

今年もサマーキャンプを迎える時節となりました。今年のサマーキャンプ担当は、泡瀬カトリック教会のブイ神父です。昨年同様、今年も感染予防対策をとった上で宿泊はせず、上記の日程で、日帰りで実施することに致しました。子供達が普段会うことのできない他教会の仲間達と出会い、活動する中で絆を深め、喜びの中で神様について学ぶ良い機会です。大勢の子供達の参加で、有益な体験となることでしょう。ふるってご参加ください。サマーキャンプに参加する子供達の安全と指導、助けとなるヘルパーの皆様の御協力を必要としています。経験・未経験に関わらずご応募いただき、実り多いサマーキャンプとなりますよう、御協力宜しくお願い致します。

葬祭の「やすらい企画」

私たちは故人とご遺族の意向を最優先に考えます。何でもご相談下さい。

那覇市首里鳥堀町4-57-3
TEL&FAX:098-885-8205
http://w1.nirai.ne.jp/yasurai
E-mail:yasurai@nirai.ne.jp

24時間受付

～ご遺族の心をもって奉仕する～

葬典社（そうてんしゃ）

＊創業30数余年・・・。
＊皆様に支えられ「感謝」とともに人生を閉じるためのお手伝いをさせていただいております。
＊ご質問、ご相談、24時間、いつでもお電話下さい。

「ゆうなの会」会員募集中です。

（実務担当）比嘉（ひが）　高茂（たかしげ）

24時間受付

☎098-853-1059（てんごく）